

学校だより

「大南っ子」



学校教育目標

個性豊かで、思いやりの心や考える力のある児童の育成めざす児童像 3つの「あ」
だ「だれに対しても自分から元気よくあいさつする子」
い「いつでも ありがとうの 感謝の気持ちをもつ子」
なん「なんでも 最後まで あきらめない子」

北九州市立大里南小学校 校長 橋 口 誠

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

教科・区分	学力の状況	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	下回っている。	全体的には全国平均正答率を下回った。漢字を正しく書く、文の中における主語を捉える、話の内容に対する聞き方を工夫する、新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉えるなど書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。
国語B	下回っている。	全国平均正答率を下回った。特に、国語への関心・意欲・態度を評価する問題、自分の考えを書く記述式の問題については、全国平均正答率を下回っており、国語への関心・意欲・態度を高めることや自分の考えを記述することを習慣化することが課題となる。
数学A	上回っている。	全国平均をやや上回った。16問中13問が全国平均を上回っており、数と計算や量と測定などの基礎的な内容の理解ができていた。
数学B	下回っている。	全体的には全国平均をやや下回ったが、数量や図形についての知識・理解についての問題については、全国平均を上回ることができた。
理科	下回っている。	全体的には、全国平均を下回った。特に、記述式問題に対する正答率が低く、国語科算数科と同じように、日常の授業記録や自分の考え(予想・まとめ・わかったこと・振り返りなど)を書くことを習慣化する必要がある。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

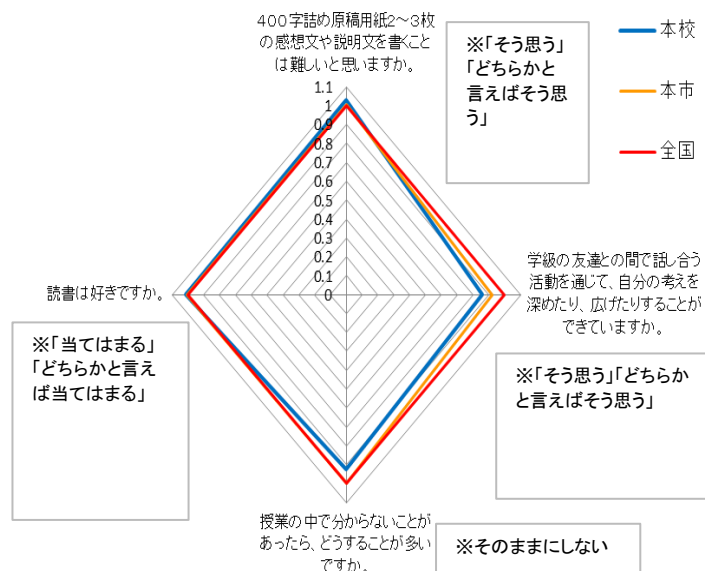
本校と本市の対全国比(全国を1とする)

・文章に書くことに抵抗感を持っている児童が年々増加する傾向にある。書くことに関しては、学力調査の結果からも、無回答率が高くなる傾向があり、自分の考えを書いてから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置づけたりして、書くことを日常の授業に習慣化する必要がある。

・話し合い活動では、全国平均を下回っており、日常の授業の中で、ペア学習やグループ学習を工夫して、話し合い活動を通して思考が深まるように指導・支援して行きたい。

・授業などで、分からないことがあったら、先生よりも友達や家の人に尋ねることが多く、教師とのコミュニケーションや信頼関係をもっと高めて行く必要がある。自分で調べるが全国や市の平均よりも低く、そのままにしておくが9.2%と多くいることが課題であり、自力解決の力を児童に育てなければならない。

・読書への関心についても、全校平均を下回っているため、課題読書の時間を多く設定して、児童

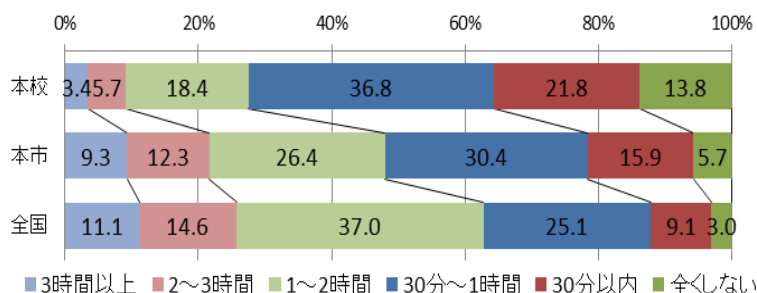


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

普段1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、本市や全国よりかなり低く課題が見られる。また、休日に家庭学習を1時間以上している割合も本市や全国より低く、家庭学習の絶対量が少ない実態を把握することができた。学校の宿題のみの家庭学習をしている児童が多く、宿題以外の家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。自分で計画して勉強している児童の割合も本市よりも低く、全国より10ポイント以上差がある状況が続いており課題である。

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

将来の夢や目標をもっている児童は、全国の児童の割合と同じくらいいる。それぞれの夢や目標を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

普段、1日あたり2時間以上テレビ等の接触時間は、全国の割合を上回っており、昨年度より3時間以上の児童の割合が増加したのは課題である。普段1日あたりのテレビゲーム等の時間や携帯電話やスマートフォンやメール、インターネットの使用が、昨年度より3時間以上の児童の割合が増加したのも課題であり改善が必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 算数科の関心・意欲・態度の力を高めるために、わかる楽しさを児童に味わわせる主題研究3年次(「算数科のおもしろさを味わわせるための授業づくり」)の研究実践に全職員で取り組む。特に、導入時や学習後の振り返りについては、改善を図る。
- 国語科の授業については、校内研修会を実施し、思考力を育てるための発問や板書の仕方等を研修し、工夫と改善を図る。
- 学力向上推進委員会による朝の大南タイム1(8:40~8:50)の内容(月:算数、火:読書、水:ひまわり、木:漢字、金:算数)の課題(計算プリントの問題等の内容の充実、課題読書や個に応じた読書活動の充実、ひまわりの暗唱の仕方の充実と音読発表会の設定、漢字テストの内容の充実、)の工夫と改善を図る。
- 各学年・少人数指導担当・理科専科指導担当による大南タイム2における宿題の内容(過去問やアシストシートの活用等)の工夫と改善とその実践を図る。
- 個に応じた指導の充実のために、各担任や少人数指導担当、理科専科指導担当による習熟度別指導や課題別によるTT指導等の工夫とその実践を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学力向上推進委員会による児童の学習習慣<学習用具の共通理解・学習の取り組み方(学習態度・ノート指導・発表の仕方等)>の定着を図る。
- 生徒指導部会、学校保健安全委員会による生活習慣<あいさつ・言葉遣い・名札の着用・チャイム席・落ち着いた学校生活のための事故防止推進のための(廊下や階段歩行・教室移動の際の静かな廊下や階段歩行、遊びのきまり等)>の充実を図る。
- 生活習慣や学習習慣の改善については、校長作成による学校だよりや学年作成による学年だよりによって、保護者への啓発を図る。
- 教務主任作成による家庭学習の手引き(各学年の家庭学習の時間と内容)を保護者に配布し、保護者の協力を求める。
- 教務主任作成による自主学習の手引き(各学年の自主学習の内容)を保護者に配布し、保護者の協力を求める。
- 自主的に工夫して取り組んだ児童の自主学習の例を紹介し、「家庭学習マイスター」への応募への推進を図る。